



出張報告書

令和8年8月10日

尼崎市議会議長 様

団体名: 尼崎市議会 無所属議員の会

代表者氏名 池田 リナ

出張者氏名 池田 リナ

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和8年8月9日

2 結果の概要

用務先 さいたま市	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 産婦人科医による性教育講演会
添付書類 ☐ 出張報告書 ☐ ☐ ☐	備考

3 届出事項の変更等 ☒ なし ☐ あり (内容は裏面に記載)

旅費の精算

☒ 精算額は、令和8年6月24日届け出た額 (31,460 円) と同一額である。

☐ 届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

月	日	日	日	日	日	日	日
前 発着地							
後							
前 経 路							
後							
前 用務先							
後							
前 宿泊先							
後							

視察報告書

尼崎市議会 無所属議員の会

池田 ひと

日時:令和 8 年 8 月 9 日(日)14 時~16 時

場所:さいたま市浦和コミュニティセンター

テーマ:家庭における性教育、思春期保健、プレコンセプションケア及び
ユースクリニックの取組について

講師:高橋 幸子 氏(サッコ先生)/産婦人科医・埼玉医科大学

内容:講演会「どう伝える?家庭でできる性教育」

1. さいたま市の思春期保健と性教育

さいたま市では小・中学生、高校生等の思春期にある子どもとその保護者、関係者を対象に「思春期保健事業」を実施しています。その一つである「思春期保健教室」では、助産師等の専門職が学校等に出向き、思春期の心と身体の変化、生命の誕生、妊娠・出産、性に関する正しい知識などを、発達段階に応じて伝えています。

単に妊娠・出産の仕組みを教えるのではなく、自分の身体を大切にする
こと、自尊心を高めること、自ら考え自己決定する力を育てることも目的
とされています。

今回の講演で印象に残ったのは、「性教育を誰が、いつ、どのように担うのか」という視点です。子どもたちは学校だけでなく、SNS や動画、友人などから性に関する情報を得ています。誤った情報に触れる前に、信頼できる大人から科学的で正確な情報を届ける必要があります。

学校だけ、家庭だけに任せるのではなく、学校ですべての子どもに基本的な学びを保障し、家庭、地域の専門職、医療機関がそれぞれの役割を担うことが重要です。

2. 包括的性教育とプレコンセプションケア

包括的性教育は、性交や妊娠、避妊だけを学ぶものではありません。ユネスコ等による「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」では、次の 8 つのキーコンセプトが示されています。

- ・人間関係
- ・価値観、人権、文化、セクシュアリティ
- ・ジェンダーの理解
- ・暴力と安全確保
- ・健康とウェルビーイングのためのスキル
- ・人間のからだと発達

・セクシュアリティと性的行動

・性と生殖に関する健康

その土台にあるのは、「自分の身体は自分のもの」「相手の身体も相手のもの」という人権の考え方です。嫌なことには嫌と言ってよいこと、相手が嫌だと言えればやめること、困ったときには助けを求めてよいことを幼い頃から伝えることも性教育です。

講演では、多様な家庭環境への配慮についても学びました。「お父さんとお母さんが愛し合って赤ちゃんは生まれた」と特定の家族像を前提にするのではなく、「赤ちゃんが生まれるためには精子と卵子が必要で、受精卵が子宮で育つ」と科学的に説明することで、ひとり親家庭や養子縁組など様々な背景を持つ子どもにも共通して伝えることができます。

また、SRHR(性と生殖に関する健康と権利)やプレコンセプションケアについても学びました。プレコンセプションケアは、妊娠を希望する女性だけのものではなく、男女を問わず、若いうちから自分の心身の健康について知り、将来のライフデザインについて考える取組です。

3.「希望(ゆめ)たまユースクリニック」

さいたま市では、若者が性や身体、こころについて気軽に相談できる場として、「希望(ゆめ)たまユースクリニック」が開催されています。

会場では、生理用品や避妊具、性教育に関する書籍等の展示のほか、専門職への相談、コンドームの正しい使用方法、プレコンセプションケア、HPV ワクチン等についての情報提供が行われています。

ユースクリニックでは、相談できる「場所」をつくるだけでなく、誰が相談に乗り、必要な支援や医療につなげるのかという視点も重要です。

さいたま市・埼玉県には、思春期保健に関わる医師や助産師等の専門職、「彩の国思春期研究会」などのネットワークがあります。学校での性教育と地域での相談支援がつながることで、若者が困ったときに安心して専門職へ相談できる環境づくりにつながります。

また、性教育を知識の提供だけで終わらせず、HPV ワクチンなどの予防、妊娠や性感染症への対応、必要な医療へのアクセスまでつなげていくことも重要です。

自分と相手の身体を大切にすることや同意について学び、困ったときには信頼できる大人や専門職に相談できる環境を整えることは、子ども・若者の健康と権利を守ることにつながります。

4. 尼崎市の若者支援

今回の視察を踏まえて尼崎市を振り返ると、本市にもユースヘルスにつながる取組がすでに複数あります。

「あまがさきユース保健室」は、日吉和子先生らによるユースクリニックに関する研究・実践を背景に始まり、現在は実行委員会が主催し、尼崎市が後援する取組です。小学生から 20 代までを対象に、からだ、こころ、性、人間関係などについて、看護師等の専門職に無料・予約不要で相談できます。学校でも家庭でも病院でもない、若者が気軽に専門職とつながれる「まちの保健室」のような役割を担っています。

また、コミュニティナースによる「ヌック」では、子ども・若者が日常生活の延長で立ち寄り、何気ない会話から困りごとを相談できます。相談窓口で待つのではなく、若者の日常の中で関係をつくり、必要な支援につなぐアウトリーチ型の取組です。

一般社団法人 enGrab(えんぐらぶ)は、「アマの子をだれひとり、ひとりぼっちにしない」を掲げ、10 代の SNS 相談、中高生の居場所づくり、生活・居住支援などを行っています。予期しない妊娠については、緊急避妊薬の費用負担や医療機関への同行など、相談後の支援にも取り組んでいます。

さらに、伊藤産婦人科医院では、13～18 歳の女性が 500 円で助産師に相談できるユースクリニックを実施しています。妊娠、避妊、性感染症、デート DV、人間関係等を相談でき、必要に応じて緊急避妊薬や低用量ピル、性感染症検査など、別途費用でそのまま医療につながることもできます。

尼崎市保健所でも、小学生からおおむね 25 歳までを対象とした「思春期・若者ころの相談」を実施しており、メンタルヘルスについて精神科医に相談できる仕組みがあります。

このように、尼崎市にはすでに「無料・低額で相談できる場所」「地域でつながる場所」「伴走する支援」「医療につながる場所」があります。

5. 尼崎市で生かしたいこと

さいたま市と同じユースクリニックを、そのまま尼崎市につくることはできません。さいたま市には、高橋先生をはじめ、長年思春期保健に関わってきた専門職や地域ネットワークがあります。一方、尼崎市にも、あまがさきユース保健室、ヌック、えんぐらぶ、地域の産婦人科、保健所など、尼崎ならではの資源があります。地域資源の違いを踏まえ、尼崎に合った仕組みをつくる必要があります。

尼崎市の課題は、「若者の相談場所がない」ことではなく、すでにある取組が、若者から見て一つの分かりやすい仕組みとして十分につながっていないことです。

今回の視察を踏まえ、尼崎市に次の 4 点を引き続き提案します。

1 点目は、思春期・若者の健康課題を「ユースヘルス」として総合的に捉えることです。予期しない妊娠だけでなく、メンタルヘルス、摂食障害、オ

ーバードーズ、性被害など、思春期・若者の心と身体の課題を「ユースヘルス」として総合的に捉え、施策を進めるべきです。

2 点目は、部局・専門職をつなぐ横断的な連携体制をつくることです。教育、保健、医療、福祉、こども・若者支援の関係部署に加え、医師や助産師等の専門職も含め、課題を共有し、必要な支援につなぐ「ユースヘルス連携会議」のような横断的な体制づくりが必要です。

3 点目は、相談から医療まで確実につながる仕組みを整えることです。相談できる場所を整えるだけでなく、必要な若者が確実に医療につながれることも重要です。緊急避妊や初回妊娠判定などについて、経済的な理由で受診をためらうことがないよう、医療アクセスや費用負担のあり方について検討する必要があります。

4 点目は、市の計画に「ユースヘルス」の視点を位置付けることです。「尼崎市こども・若者総合計画」や健康に関する計画等に「ユースヘルス」の視点を位置付け、教育、保健、医療、福祉、相談支援を部局横断で進めることが必要です。

今回の視察で得た学びを、尼崎市の施策に生かしてまいります。

令和8年度

ゆめ
希望
in

たまユースクリニック in コムナーレ

8月9日 日 13:00~17:00

場所

浦和コミュニティセンター

(時間内出入り自由)

参加無料

第14集会室

(コムナーレ10階・浦和駅東口より徒歩1分)



さいたま市PRキャラクター
つながる ヌゥ

ユースクリニックとは…

思春期の若者が気軽に訪れて、性の正しい情報を得ることはもちろん、性に関する相談やメンタルサポートなどが受けられる場所です。

実際に見て、触って、
体験出来る!



☆展示コーナー☆

- ＊最新の生理グッズ
- ＊いろいろな避妊グッズ
- ＊性教育の絵本や書籍等



☆体験コーナー☆

- ＊実際に見て、触って、体験できる!

小さいお子さんから
大人の方まで気軽に
お立ち寄りください!

こころ・からだ・避妊などについて、
専門家に無料相談できます

同時開催

☆サッコ先生(産婦人科医)による講演会☆ 「どう伝える？」



家庭でできる性教育

講師：高橋 幸子 医師

(埼玉医科大学病院 産婦人科)

日時：8月9日(日) 14:00~16:00

場所：浦和コミュニティセンター

(コムナーレ10階) 第13集会室

対象：さいたま市内在住・在学の思春期年代
(小4~高校生)の保護者の方

【申込み期間】 ⑧講演会是要申し込み!!

7月5日(日)~7月31日(金)

詳細は、以下のURL
又は、こちらから→

<https://www.city.saitama.lg.jp/007/001/006/p130142.html>



- ・思春期の子に、何をどうやって伝えればいいの？
- ・大人が知らないことが多くて、子どもに教えるなんて不安…
- ・性教育って、妊娠のことだけじゃないってほんと？

↓
こんな疑問にお答えします！
皆様のご参加をお待ちしています！



※希望たまユースクリニックにもお立ち寄りください

主催：さいたま市

共催：(一社)彩の国思春期研究会

問い合わせ：さいたま市母子保健課

TEL：048-829-1588

FAX：048-829-1960



さいたま市



Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

さいたま市の相談先



妊娠・出産の
電話相談



こども家庭センター
妊娠・出産包括支援担当



不妊・不育の
相談